

公益財団法人 小林製薬青い鳥財団の2019年度の助成先（支援活動・調査研究）、顕彰先のなかから1例ずつ、活動内容をご紹介します。本財団では、受賞先が抱える様々な社会課題を広く世の中に知っていただき、支援の輪が広がることを目指しております。

【2019年度 助成先 支援活動分野】

※ 各人による紹介コメントを原文のまま抜粋

NPO 未来 ISSEY（代表者：吉田 ゆかり）

「チーム グットブラザー」～病気の子どもたちを「笑顔」に 明るい「未来」を支えたい～

香川県で小児がんや心臓病など慢性的な疾患をもち、長期入院や治療が必要な子どもやその家族を支援しています。

今回の助成による活動は人との交流が目的です。学生ボランティアチーム「チーム グットブラザー」を作り、子どもたちに近い年齢のお兄さん・お姉さんが遊んだり勉強を教えたりすることで、入院中・家庭療養中の不安を少しでも和らげたいと願っています。病院の小児科病棟内に定期的に訪問し、ベッドサイドやデイルーム等で行います。入室できないきょうだい児にもデイルームで学習や遊びに加わってもらいたいと考えています。



【2019年度 助成先 調査研究分野】

筑波大学 医学医療系 小児保健看護学 助教 小澤 典子

慢性疾患の子どもへの成人移行に対する親の準備状況とその関連要因の検討

あらゆる病気の子どもと家族に対して、発達に合わせた看護支援が提供できるよう看護支援の検討を進めています。

慢性疾患の子どもは多くは成人期を迎えており、成人移行に向けた自立支援が重要な課題です。その支援は、子どものみならず、親を含めて行う必要があります。

今回の助成により、子どもの成人移行に対する親の準備状況を調査し、関連要因を検討します。



【2019年度 顕彰先（小林製薬青い鳥財団賞）】

特定非営利活動法人 心臓病の子どもを守る京都父母の会（代表者：杉本 寿一）

心臓病児のための自主保育の場「パンダ園」～子どもたちと家族の笑顔を守るために～

「パンダ園」は1975年、病児が子どもらしく過ごすことができる居場所として設立されました。現在も週2回（火・金曜の親子通園）開園し、病児とその家族への支援や、サマーキャンプなど季節行事開催を続けています。行政や医療機関への働きかけ（育成医療の全額公費負担、内科的治療の無料化、心臓検診実施などの実現に尽力）及び、情報発信（医療講演会・相談会）なども行なってきました。その活動は多くのボランティアに支えられています。



【2019年度 助成先一覧】（順不同）
◆支援活動

名称	所在地	主題
福岡食物アレルギーネットワーク (代表者：柴田 瑠美子)	福岡県	食物アレルギー児を持つ保護者のための子育て応援プロジェクト
NPO 未来 ISSEY (代表者：吉田 ゆかり)	香川県	「チーム グットブラザー」～病気の子どもたちを「笑顔」に 明るい「未来」を支えたい～
特定非営利活動法人 i-care kids 京都 (代表者：藤井 蒔)	京都府	医療的ケア児が通える小規模保育園に“お庭”をつくるプロジェクト
特定非営利活動法人 Art for Children's SHINE (代表者：柴田 紀代)	千葉県	児童発達支援事業所「結」におけるアートセラピー
特定非営利活動法人 パラキャン (代表者：江藤 秀信)	千葉県	障害児とその家族の外出を楽しくするモノづくり～自主制作キットの提案～
音楽療法カノンの会 (代表者：高橋 小絵)	埼玉県	♪みんなで音楽♪～心も身体も豊かに育てよう～
合同会社 BankLife (代表者：堤 真也)	大阪府	宝塚市に医療的ケア対応の重度障がい児のデイサービス設立プロジェクト
特定非営利活動法人 難病ネットワーク (代表者：恒川 信一)	東京都	病弱教育の実態把握、課題解決のための相談と学習の機会の提供
認定特定非営利活動法人 アトピっ子地球の子ネットワーク (代表者：吉澤 淳)	東京都	食物アレルギーの子どもたちの安心安全を支援するプロジェクト
網地島ふるさと楽好 (代表者：奥田 和慶)	宮城県	網地島ふるさと楽好～限界集落の社会貢献 大切にされ 愛される記憶を子どもたちに～

◆調査研究

名称	所在地	主題
小澤 典子 筑波大学 医学医療系小児保健看護学 助教	茨城県	慢性疾患の子どもの成人移行に対する親の準備状況とその関連要因の検討
竹添 豊志子 東京大学大学院 医学系研究科 博士課程	東京都	本邦における、重度の運動障害を有する小児の栄養摂取状況調査

【2019年度 顕彰先一覧（小林製薬青い鳥財団賞）】

名称	所在地	主題
特定非営利活動法人 心臓病の子どもを守る京都父母の会 (代表者：杉本 寿一)	京都府	心臓病児のための自主保育の場「パンダ園」の運営活動

以上